

# 令和4年度 第1回宇陀市総合教育会議 議事録

開催日時：令和4年7月21日（木） 14時00分～15時30分	
開催場所：宇陀市役所3階 庁議室	
構成員出席者	金剛一智宇陀市長 田淵泰央教育長 巽礼子教育委員 吉川壽一教育委員 峯畑忠郎教育委員 山本眞二教育委員
説明者	萩岡教育委員会事務局長 太田教育委員会事務局次長 山岡教育総務課長 鈴木総合政策課長 垣内教育総務課主幹 今西教育総務課主幹
協議事項	(1) 宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県立宇陀高等学校、奈良県教育委員会、奈良教育大学の包括連携協定について (2) 宇陀市立学校の適正化に関する基本的な考え方について
議事（発言内容等）	
市長	みなさんこんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、平素は宇陀市の教育行政の充実のため、ご尽力いただきありがとうございます。現在進められている学校適正化の取組の中で、特色ある学校づくりを行うことを通して、市の活性化が図られることを市長としても期待しているところです。先日、榛原東小学校で測定の体験授業を見てきました。県の測量設計業協会の方が、GPSなど最新の機器を使って運動場に実寸大の大仏の絵を描くなど、体験を通して測量についての理解が深まるような授業が工夫されていました。子ども達にとっていい経験になったと思います。また、菟田野小学校では、学校で作った野菜を校区内のスーパーで販売し、その収益金をウクライナ支援に寄付する取組が新聞で報道されていました。各学校において、宇陀っ子の健やかな成長を願って様々な特色のある取組が行われていることを知り、今後の活躍に大変期待をしているところです。
垣内主幹	本日は、次第にもありますように、宇陀高校等との連携協定と学校適正化の話を中心に、今後の宇陀市の教育行政の在り方について議論してまいりたいと思います。限られた時間ではありますが、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
垣内主幹	それでは早速ではございますが、本日の協議事項であります「宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県立宇陀高等学校、奈良県教育委員会、奈良教育大学の包括連携協定について」事務局から説明をお願いします。
垣内主幹	それでは、「宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県立宇陀高等学校、奈良県教育委員会、奈良教育大学の包括連携協定について」説明させていただきます。
垣内主幹	市長には昨日の政策調整会議で、教育委員の皆様には定例教育委員会で説明させていただきましたとおり、本市に存在する県立高校として、これまでから地域と密着した教育活動を展開しておりました大宇陀高校と榛生昇陽高校が、今年4月から段階的に宇陀高校に再編されることに伴い、市と高校との連携を一層密にして、市や高校の活性化を図ることを目的に包括協定を結ぶものです。連携の趣旨と協定書案については別紙のとおりとなっております。8月18日に県教育委員会において協定を締結する予定でございます。以上、私からの説明とさせていただきますが、この協定に関わって、その当時、榛生昇陽高校の校長として、携わり尽力されました教育長の方からも、補足等がございましたらよろしくお願いいたします。
教育長	失礼します。私が榛生昇陽高校の校長の時に、宇陀市と何か連携をしながら進めていけないかと考えておりました。榛生昇陽高校は福祉専門の学校でもあったため、地元との連携を考え、幼稚園、保育所、こども園での実習や各種イベント時の協力や、榛原中学校での福祉の実習や実演を行っていました。もう少し人材育成ができないかと考え、こども園などで1カ月の長期実習を行い、佐保短期大学と連携し特別な入試制度を作ってください、国の授業料半額免除制度も活用しながら、ほぼ授業料が無料になる取組みも行いました。宇陀市で働きたいという気持ちを持った子どもたちが保育士などの資格を取得し、宇陀で就職し活躍してもらいたいという思いがありました。保育や介護に関わる人材を榛生昇陽高校で育成し宇陀市で活躍してもらおう、もっといえば宇陀市の子ども

たちが榛生昇陽高校で学び資格を取得し、宇陀市で働いてもらえればとよいと考えていました。ちょうどその時に宇陀高校に再編されることになり、専攻科ができ18名の外国人が在籍しています。その子たちが、介護福祉士の資格を取得し、宇陀市で就職してもらいたいという思いがあります。介護福祉の専攻科で外国人の子どもたちが入試で選考され入学できるのは、公立学校では、全国で3番目、近畿で初となります。

今度は、宇陀市の教育長という立場になり、高校生の力を借りて活躍してもらおうことで、宇陀市の子どもたちに何かプラスにならないかという思いに切り替わりました。宇陀の子ども達に、宇陀で育ち宇陀で活躍してほしい、そこに宇陀高校の生徒たちが一役買ってほしいという思いがあります。最初は、宇陀市と宇陀市教育委員会と榛生昇陽高校で連携協定の話を進めていました。榛生昇陽高校は県立高校になりますので、奈良県教育委員会も加わり連携協定を進めていました。そこに宇陀高校ができ情報科学科ができるということで、高校生のスキルと宇陀市の子供たちとで何か出来ないかを考えました。そこで、奈良教育大学の教授に相談したところ、算数教育で、小学校の先生に算数のつまづきを教えていく取組みを進めているとお聞きし、宇陀市の小中学生は一人一台パソコンを持っていますので、子ども達に何か出来ないかと、奈良県の教育長に相談し、奈良教育大学の協力も得ながら進めていくことになりました。そして、東部振興も絡めて進めていくこととなり、曾爾村、御杖村も含めた宇陀地域として、宇陀市、曾爾村、御杖村、奈良県立宇陀高等学校、奈良県教育委員会、奈良教育大学の6者で包括連携協定を締結することになりました。

また、3月の協議会で、奈良県の吉田教育長が、タブレットを使った小学生対象の算数教育のモデル校として宇陀市で実施するとおっしゃられたこともあり、現在、進めているところです。6者という大きな協定を結ぶこととなり、宇陀市の中でも協議会を立ち上げ、そこでそれぞれの立場で何が出来るかを考え進めていきたい。また、6者の中でも協議会を開き、子ども達のために、また宇陀が良くなるように何が出来るかを考えて進めていきたいと思っております。

市長  
山本委員  
ここまでのところで、委員のご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。  
大学としては畿央大学と提携していますが、今回、奈良教育大学との包括連携となることにより、畿央大学との絡みはどうなるのかと思っていました。今、教育長からタブレットを使った算数のことである等の説明をお聞きし納得しました。包括協定は、お互いにメリットがないと長続きしないと思いますので、宇陀市のためだけでなく、宇陀高校や奈良教育大学にも何かメリットがあるので進むと思うので、問題等が起こらないように進めていっていただきたいと思います。

市長  
ありがとうございます。まだ、締結する前の段階ですので、しっかり取組んでいかなければならないことや疑問点を含めてご意見をいただきたいと思います。

市長  
異委員  
協定書は県が作成すると思うのですが、第1条の目的の中で、小中学校及び義務教育学校との教育の充実と示されています。実際に連携していく中で、保育の充実や福祉の充実、園所との連携があると思うのですが、それが文言の中になくていいのかと思いました。特に、宇陀市の場合は今までから、保育所、幼稚園、こども園とも連携を大事にして育ててくれたので、保育についてこれからも繋がりを進めていただければと思います。

それからもう一つ、今年の5月に退職校園長会があり出席しました。その会に曾爾村も御杖村も入っておられて、退職校園長会での総会で教育長に講演を依頼しました。その中で、これまでは、大宇陀高校はどうなるのか、榛生昇陽高校はどうなるのかという質問が多かったのですが、宇陀高校となり、包括連携協定を結ぶというお話しが聞けて、曾爾村、御杖村を含めとても喜んでおられました。何か自分たちもお手伝いは出来ないか、協力できることはないかというご意見がありました。

市長  
垣内主幹  
ありがとうございます。今の意見を受けて事務局の方で何かございますか。  
異委員からご意見がありました、就学前教育の充実というところを県にも伝えさせていただき、含めることを検討させていただきます。

市長  
包括連携協定を結んで、今後どのように運営していくのか現時点で分かっていることがあれば教えてください。

山岡課長  
協議会につきましては、例えば、福祉などの担当課と宇陀高校であるとか、協議をする

<p>市長 吉川委員</p>	<p>メンバーを募って協議会が発足していくと思っています。全ての案件が一つになった協議会ではなく、部門別に協議会を作っていくイメージを持っています。</p> <p>関係していく6つの組織で、それぞれ相談し会議の中で進めていってください。</p> <p>協定を結ぶということはとても良いことだと思います。将来の教育向上を目指して取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願ひします。また、先ほど、教育長からお話があった、小学校の算数教室のモデル校について、曾爾村や御杖村も含め一緒にモデル校として進めていくのもよいのではないかと思います。小学生や中学生の将来の学力向上をしっかり考えて進めていただきたいと思います。具体的な方策があると思いますので期待しています。</p>
<p>教育長</p>	<p>ありがとうございます。校長から教育長という立場に変わり、高校生が小中学生や就学前の子ども達へ何が出来るのかを考えていきたいと思っています。もう一つ、タブレットについて、最初に県の教育長へ、曾爾村、御杖村さんがまずお願いしたのがタブレットの事です。ひとつのコンテンツがあれば、場所を選ばず、通信さえできればどこでも受信ができるので、そういうことも含めて進めていきませんかという話をさせていただきました。今回の連携協定以前から、奈良教育大学と別に取り組みをされています。</p>
<p>市長 垣内主幹</p>	<p>例えばどんなことをされているのですか。</p> <p>十数年前から夏休みの勉強合宿で「GUTS」（学力向上合宿）というのがあり、奈良教育大学の学生が来られて実施されています。</p>
<p>市長 峯畑委員</p>	<p>素地はあるということですね。</p> <p>包括連携には希望を持っています。以前は、市立の小中学校と県立の学校と交流を持つことは難しかった。このような包括連携があれば交流しやすくなり嬉しいことです。ただ、私達はそれだけの企画力を持たなければならないし、提案していくきちんとしたものを作っていくとせつかくのチャンスを逃してしまう気がします。心新たにしていかなければならないと思っています。合併する前の話ですが、榛原は教育のまちとして、算数や国語など様々な取り組みをしていました。その中で育った教師は実力が備わり、人気があったように思います。この度、県から算数教育についての取り組みが進められていることは嬉しいことですし、期待に応えなければならないと思いました。</p> <p>また、宇陀高校の連携では、交際交流が出来るのでいろんな部分で伸ばして、宇陀市は人権教育の素地があるのでこれを活かしていってほしいと思います。</p> <p>それから、福祉の方ですが、大宇陀学舎では、介護ベッドや車いすのまま入浴できる設備が用意されていますし、保育の方では、防音設備の整ったグランドピアノや個々にレッスンできる部屋も用意されていてとても充実しています。宇陀市の子供たちが希望を持ち、そこに通い育って働いてもらえればと思います。宇陀で学んで資格を取り働いてもらえるという希望が持てました。</p>
<p>市長 教育長</p>	<p>少し気にかかるのが、学生が来てくても住む場所がないのではないかと懸念します。市内に住んでもらえれば、経済的にも循環するし、児童生徒とも日常で接することができるので、自然と国際的な人権感覚を養っていけるのではないかと思います。</p> <p>最後に、大宇陀高校でも問題になっていた交通費について、交通費が高いので生徒が集まらないという問題は回避しなければならないと思います。交通費の問題を何とか解決できれば、宇陀市の活性化に繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございます。協定を結んだ時点で、こちらの責任も出てくるということを確認しました。いろんな意見を様々な角度でいただきましたが、事務局の方で何かありますか。</p> <p>まず、大宇陀学舎の施設面は、最新のものを設置しています。介護用のお風呂も2つあり、ベッドが入るエレベーターも設置されています。ピアノのレッスンルームが5つあり防音機能がついています。グランドピアノも4台あります。とても設備は充実していると思います。</p> <p>生徒の住む場所については、学校に通っている生徒は市内のハイツで住んでいます、専攻科で宇陀高校に来る子たちは、勉強したい気持ちが強く、ハイツは3人部屋なので、自分たちで安い所を探して住んでいるので、ほとんど市外に住んでいます。やはり、市外はお店も充実していて便利ですので、宇陀市で戻っては来ない。ハイツを出る</p>

市長	<p>時に市内にあればいいのですが、アルバイト先も含めて探さなければいけませんので、住むところは課題となっています。</p> <p>一番ネックになるのがバス代です。月に 15,000 円弱ほどかかりますので、今年も生徒が集まりにくかったというのがあります。それまでは、福祉科の生徒も定員いっぱいきていましたが、大宇陀学舎になり減ったのは事実です。説明会でも、バス代の補助はあるのかと聞かれましたが「ありません」とお答えしました。県の方でもいろいろ苦労はしてくれていますが、他の学校とのことや様々なことが絡んできますし、個人に補助をするということが難しい問題です。何か魅力があれば宇陀市の子供たちも行ってくれると思うので、施設を開放し見学に行くことも必要だと思います。</p> <p>委員の皆様にはたくさんご意見をいただきました。事務局の方で、他の団体との会議の中で意見をしっかり伝えて進めてください。</p> <p>では、続きまして、「宇陀市立学校の適正化に関する基本的な考え方について」説明をよろしくお願ひします。</p>
垣内主幹	<p>それでは、「宇陀市立学校の適正化に関する基本的な考え方について」説明させていただきます。</p> <p>先の宇陀市学校規模適正化検討委員会の答申を受け、市の学校適正化を具体的に進めるために宇陀市学校適正化推進委員会を設置して7カ月が過ぎようとしています。</p> <p>令和5年度にかけて全10回を予定している推進委員会のうち、これまでに3回が終了しました。</p> <p>第1回は今年の1月に行われ、委員の委嘱・任命や諮問書の交付などが行われ、この委員会では、単に児童生徒数の減少という理由のみならず、市の学校教育をより充実させるという視点に立って、学校適正化の具体的な在り方について検討することが確認されました。</p> <p>第2回は今年の3月に行われ、適正な規模を維持できない学校について、一律に適正化を進めていくのではなく、特色ある学校づくりをすることで、学校を存続させることも含めて議論していくことが確認されました。</p> <p>第3回は今年の5月に行われ、今後の市の人口については見通せない部分はあるものの、対処療法的に考えるのではなく、中長期的な見通しをもって議論する必要があることが確認されました。</p> <p>また、地域の学校をどうするかではなく、宇陀市の学校をどうするかという大きな視点で考えることが大切だという意見も出されました。</p> <p>併せて、別紙の「宇陀市学校適正化基本方針」として、今後の学校適正化を検討するに当たっての市の基本的な考え方を示させていただきました。</p> <p>次回8月26日に行われる第4回では、学校適正化について様々な考え方がある中で、具体的な学校づくりについて議論を深めていくために、現存する各学校のメリット・デメリットを改めて明らかにしていく予定となっています。</p> <p>以上、これまで宇陀市学校適正化推進委員会で話合われた内容の概要と今後の予定について報告させていただきます。</p>
市長	<p>これまで3回の推進委員会が開催されて、現在議論がされています。</p> <p>では、ここまでのところで、ご意見や質問はございませんか。</p> <p>先に、基本方針の6ページ「学校適正化の基本的な考え方」について、説明いただけますか。</p>
垣内主幹	<p>まず1点目「これまでの検討委員会及び推進委員会の審議内容を踏まえる」について、宇陀市が考える適正化の基準は「各学年2～3学級」、「概ね30分程度の通学時間」です。これを基準としてこれからも議論していくことを示させていただきました。この基準を維持できないと見込まれる学校を中心に適正化を検討します。ただし、これまでの推進委員会の審議内容を踏まえ、少人数指導のメリットを最大限に生かした特色のある教育を行うとともに、そのデメリットを克服するための手立てを講じることにより、適正な規模を維持できない小・中学校を存続されることも視野に入れて議論していくことを推進委員会の審議も踏まえて改めてここで示させていただきました。</p> <p>2点目が、「中長期的な視点に立って検討する」では、現存する市内小学校6校のうち、榛原小学校を除く5校が平成18年以降に学校適正化を図っています。そこから</p>

	<p>ようど15年を経た現在、再度学校適正化を検討している現実を踏まえると、15年程度先を見据えた中長期的な視点に立って検討する必要があるということを示させていただきました。</p> <p>3点目が、「適正化による教育内容の充実を図る」では、学校適正化を検討するに当たっては、単に児童生徒数の減少という理由のみならず、学校適正化を図ることによって、これからの時代に求められる学習環境を整備し、魅力ある学校づくりにつなげるという視点、児童生徒の学習環境の充実という視点に立って検討するということを示させていただきます。</p>
巽委員	<p>適正化に向けての案件については、推進委員会を設置していただいて、回が進むごとに活発な意見がでていっているようで、推進委員会だよりを見させていただいても、それぞれがしっかりした意見を持っているのが伝わりました。それを丁寧に聞きながら次の回に繋げていただいている努力を感じています。</p> <p>ひとつ質問をさせていただきたいのですが、学校は耐震化をしていますが、いずれ大規模改修が必要になると思っています。もし、統合する話が進んでいった場合、統合する設備の充実にかかる費用や、小規模校で小中一貫校となった場合も、ある程度のニーズに応え学校環境を整えなければいけませんが、そういう予算のところで国の補助はあるのですか。</p>
山岡課長	<p>国の補助はあると思っています。補助については、面積での単価となると思いますが、国の方からも公共施設は集約していきなさいと示されていますので、その集約する部分については何らかの手立てがあると考えています。</p> <p>また、有利な地方債を補助裏に使わせていただいて、対応するという事は環境を整える部分で可能であると考えています。</p>
太田次長	<p>昨年に長寿命化計画を策定しました。長寿命化計画では、全ての学校が残った場合を想定して策定しております。例えば、統合などで建物が残った場合は、教育委員会に限らず、どこかで手立てをしていくことになると考えています。統合に関しての補助について、文部科学省から統合があった場合で、校舎を建てるとなった場合は、少し高い補助率があったと記憶しております。</p>
市長	<p>具体的な計画が見えないと、どういう補助があてはまるのかがわからないと思うので、今後の検討となりますね。</p>
太田次長	<p>方向が決まりましたら、しっかりした計画を立てていきます。</p>
吉川委員	<p>適正化の結論が出ていないので何とも言えませんが、3回の推進委員会をされて、地域それぞれの意見があると思います。今までどのような意見があったのか教えていただきたい。</p> <p>それから、疑問に思っているのが、適正化の学校規模の中で、「概ね30分程度の通学時間」とありますが、宇陀市では通学バスで通っている子ども達も多いと思います。30分程度とは、バスに乗車してからの時間なのか、最終に乗車したところから学校までが30分なのか教えてください。室生などバスに乗っている時間が長い子ども達の保護者からは、意見が多いのではと思っています。現状の道路事情で考えていますが、統合に向けてインフラ整備、道路整備をすることも考えておられるのか、またそういった意見も出てきたのかも含め教えていただきたい。</p> <p>また、適正化の基本的な考え方の「中長期的な視点に立って検討する。」の中で、平成18年以降に学校適正化を図っているとあるが、その時に、宇陀市の人口減少を踏まえて中長期的な適正化を考えられていたのか、どんな意見があったのか教えてください。</p>
垣内主幹	<p>これまでにあった意見について、これまで本市で行われた学校適正化の取組と今回を比較して、丁寧に市民の意見を聞きながら進めていると評価をいただいています。我々も、全ての意見を吸い取れているか不十分な部分もありますが、できるだけ保護者や地域住民の方々の声を吸い上げるよう工夫し取り組んでいます。また、回を重ねるごとにたくさんの意見をいただいています。意見の特徴としましては、地域によって様々で、それぞれのご自身の経験などを踏まえて適正化へのご意見がたくさん寄せられていますので、なかなか一言で特徴としてお伝えできませんが、十人十色の意見をいただいています。</p> <p>それから、バスの通学時間の考え方ですが、学校規模適正化検討委員会の中では「概ね</p>

	<p>30分程度」、国の基準では、「1時間程度」となっています。この時間は、自宅から学校に到着するまでの時間となっています。第3回の推進委員会の中で多かった意見としまして、小学校は近いほうがよいという意見が多かったのですが、中学校については、これから社会に出る準備をするという部分で、やはり一定の集団の中で学ぶことが必要なのではないかと意見が一定数あり、通学時間を30分と限定しなくてもいいのではないかと意見もございました。</p>
山岡課長	<p>平成18年当時の学校適正化への考え方について、その当時は、旧の町村で考えていたと記憶しています。例えば、室生地域であれば室生東小学校や中学校をどうしていくのかといった、それぞれの地域で学校適正化を考えていたと認識しています。今回につきましては、宇陀市全域を対象とし推進委員会で議論されております。</p>
吉川委員	<p>自宅から学校までが30分なのですね。30分では難しいところもあるのではないかと思います。</p>
垣内主幹	<p>現在の通学時間についても調査しましたが、30分を超える児童生徒も一部おります。全員がその枠にはまるのは難しいと思いますし、推進委員の方々も「概ね」といったところでとらえておられます。我々は、答申を踏まえて基準を示させていただいておりますので、推進委員会ではそれを踏まえた上で、適正な配置等、意見をいただいております。固定されたものではないということで考えていただいております。</p>
峯畑委員	<p>意見ではなく、自身で考えていることですが、適正化の基準を維持できる見込みがない学校についても存続していかなければならない。では、存続ができる学校とはどういう学校なのかと考えています。特色ある学校づくりとはどういうものがあって、どういう学校があるのか、これから情報収集をしないとイケないと思っていて、自身の宿題だと思っています。</p>
市長	<p>特色のある学校づくりということで、推進委員会の中で何か意見はありましたか。</p>
垣内主幹	<p>規模と配置の基準を満たさない学校のデメリットを克服することによって、小規模校を残すということですので、例えば、先ほど吉川委員がおっしゃられたインフラ整備を進めることによって、30分以内の通学時間になるとデメリットを克服でき、手立ての1つになると思います。また、特色のある学校とはどのような特色なのかは、推進委員さんはそれぞれの地域から選出されていますので、その地域の特色を活かした学校を現在考えていただいております。それから、特色のある小規模校を残す手立てとして、小規模校特任制度を採用することによって、児童生徒数の減少に歯止めをかける手立てのひとつになると思います。特色のある学校に、宇陀市の他の地域から通わせたいと思うような学校づくりをどのように進めるかは、地域住民でもある推進委員さんに現在議論していただいているところです。</p>
教育長	<p>補足になりますが、特色のある学校について推進委員会で議論する中で、推進委員さんはみなさんしっかり勉強されて、全国でこんな例がある等いろんな情報を持っておられます。私も全国の教育長会などで情報は持っているのですが、だいたい知っておられます。こんな学校があり、これは宇陀市に取り入れられるのではといった意見も出ています。こちらもしっかり追いついていかなければならないと思うくらいです。各委員さんが自分の地域の小学校でどういったことができるのかをそれぞれ考えていただいております。その中で、委員さんの質問にしっかり答えられるように我々も準備をしていかなければいけないと思っております。</p>
山本委員	<p>検討委員会で答申が出て、それに基づき現在、推進委員会で議事が進められています。推進委員会の回を重ねるごとに議論が進んでおり、事務局がしっかり進めていただいているからだと思います。来年の10月に答申がありますので、今後も適正化推進委員会でしっかり取り組んでいただければと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。推進委員会でしっかりと議論をしていただき、活性化するよう事務局でも進めていただきたい。ご意見を聞かせていただき、小規模校であってもそうでない学校であっても、やはりどの学校も宇陀の教育や特色というものを持っていただきたい。学校で特色を考えていただいて、推進委員会の方にもぶつけていただくような、そんな活発な議論を期待したいと思います。</p>
教育長	<p>では、教育長の方からお話をいただければと思います。</p> <p>市長がおっしゃられた学校の特色について、義務教育である小中学校の特色というもの</p>

を、学校の中でもっとしっかり考えてほしいと思っています。高校ですと、考えていかないと生徒が来なくなりますので、生徒に来てもらうためにいろんな特色を出そうと考えていますが、小中学校は生徒がいるので意識が弱い気がします。校長先生にもそれぞれの地域の特色が出せるような学校を考えてほしいと伝えていますし、取り組まなければならないと思っています。

まず、包括連携協定については、宇陀市にある唯一の県立高校と幼・保・小・中・高の連携が何かできないかと思っているところです。高校の先生が中学校で授業をすることか、高校の力を借りて宇陀市の子ども達の学力の向上に役立ていければと思っています。つながりができることで地元の活性化にもつながっていくと思っています。宇陀市で生まれた子どもを宇陀市で育てて宇陀市で活躍してもらえようような人材を育成することが、この連携協定でできればいいと思いますし、市外から宇陀高校へ来ている子が宇陀市の魅力にひかれて宇陀市で就職してくれることになるともっと嬉しいと思います。この協定が実のあるものにすることが必要だと感じています。

それから、適正化の基本方針については、適正化検討委員会からの答申を受けて教育委員会が作成するものです。答申の但し書きが保護者の意見も踏まえてということから、推進委員会でも意見を集約して基本方針がまとまってきました。これを受けて、推進委員会が動くことが本来の形ですが、保護者の意見を聞くということのを重要視したかったので、推進委員会の中でいろんな意見を集約できればと1回目2回目を実施させていただきました。推進委員会が教育委員会の諮問を受けて、基本方針の下で議論いただいています。毎回推進会だよりを発行して概要を皆さんに知っていただけるようにいただいています。推進委員会では、令和9年度にどうするかだけでなく、今後10年後、15年後を見据えた考えを答申に盛り込んでいただけると期待しています。一番大切なのは、子どもの教育環境をどうしていくのかということですので、教育委員会は推進委員会からの答申を受けて次の宇陀市学校適正化基本計画を策定していく予定をしています。

市長

ありがとうございました。最後にご意見をお受けしたいと思いますがよろしいでしょうか。それでは、皆様からいただいた貴重なご意見を踏まえ、今後、包括連携につきましても、宇陀市立学校の適正化の具体的な推進につきましても取り組んでまいりたいと思います。本日はありがとうございました。